

皆さんは、自分のスケジュール管理をどのようにしているだろうか。私はというと、スケジュール帳を使うタイプである。いつから使っているのか。記憶に残っているのは大学生のときからである。小さくかわいらしい手帳サイズのものだった。大したことは書いていなかったが、講義を休んだことだけはしっかり書いておいた。計算を間違えると、単位を落とすことになる。

教員になり、スケジュール帳になった。週単位の見開きで、左側のページには、日にちごとに仕事や予定を書いていく。右側のページは、自由記述欄になっている。このスタイルで始めて、慣れてしまったせいか、ずっと変わらない。

ある中学校で生徒指導主事を務めることになった。スケジュール帳は、一回り大きいサイズのものに変わった。右側の自由記述欄に書く量が増えたのである。それ以来、ずっと同じスケジュール帳を使っている。

左側のページには、赤色と青色と緑色のボールペンとシャープペンによる記入がある。教頭時代は、赤色が校長先生の出張、青色が自分の出張、緑色が会議等だった。それが、自分が校長になり、赤色は自分の出張、青色は校内での外部から人が来る会議や研修会、緑色が校内での会議となった。黒色ボールペンではなく、シャープペンを使っているのは、よく変更があるからである。そのため、細長いペンタイプの消しゴムを持っている。

スケジュール帳への記入は、愛用のジェットストリームである。3色ボールペンとシャープペンの機能を備えた優れものである。使っていると、赤か黒が書けなくなる。替え芯を買えばいいのだが、違う物を新しく買ってしまふ。そんなことをしているため、家には何本ものジェットストリームがある。今では、7本のジェットストリームから、その日のスーツやワイシャツ、ネクタイに合わせて1本を選ぶようにしている。ささやかな楽しみである。

毎年、同じスケジュール帳を使うのはいいのだが、表紙カバーは毎年黒である。数年前に気づいた。表紙カバーを作ることができる。早速、ネットで注文した。色は、無難なネイビーにした。紺色である。これが一番飽きない。ネームも入れてみた。毎年、3月最終週になると、表紙カバーを元の黒カバーに戻し、書棚の定位置に納める。そこには、おびただしい冊数のスケジュール帳がある。そして、真新しいスケジュール帳にネイビーの表紙カバーをつける。

まもなく、書店などに4月から3月まで使用のスケジュール帳が並ぶ。一応、いろいろと見てみるが、買うのは決まっている。毎年、お目当ての物を見つけて安心している。今年になり、私の机上から卓上カレンダーが消えた。ある重大なことに気づいたためである。愛用のスケジュール帳には、毎週のページに、小さいながらもその月と翌月のカレンダーが載っている。これを見ればいい。この存在に気づくのに、30年という歳月を要した。毎日見ても気づかなかった。人は見ているようで見ていないことが多い。

仕事以外の予定は、さすがにスマホにメモするようになったが、仕事のことはすべてスケジュール帳に書いている。このスケジュール帳がなくなったり、取り上げられたりしたら大変である。勤務中は、このスケジュール帳を肌身離さず持ち歩いている。あまりにも頼りすぎているようにも思えるが、間違いがない。書き込んでいくことで、優先順位が明らかになり、仕事の見通しが立つ。

スケジュール帳にジェットストリーム、それにスマホは、私にとって三種の神器である。毎年のことだが、同じスケジュール帳を買っているだけなのに、レジに並ぶときには、何だかウキウキしている。新年度への期待なのだろうか。スケジュール帳、それは、私にとって絶対的な存在である。